

生徒が主役の一貫校

富山県初の中高一貫校の開校(2005年中学、08年高校)から20周年を迎えた学校法人「片山学園」。1977年に小さな学習塾を始めた頃から、子どもたち一人ひとりの可能性を信じて開花させる教育を重視してきた片山学園理事長は、生涯現役で「生徒が主役の学校」を実践していく覚悟だ。

(聞き手 加藤弘之、鶴田晃大)

△県内初の中高一貫校の開校から20周年を迎えました。

「野球の大谷選手は、日本と世界の差をなくし、日本が世界に知れ渡る活躍をしています。生徒には『日本に留まらず世界を見よう』『どこでも通用する知性と教養を持つ人間になろう』『そのために英語を勉強するんだよ』と教えています」

「先取り授業が行えるのが一貫校の強みです。特に数学や英語では、生徒の理解度を測りながら、速く深く学んでいきます。中学生でも高校の先生に質問ができる環境があります」

「小中高と一貫して力を入れるのは英語です。世界で活躍できる人材を育てるためです。小学校では1日1時間、英語の授業を日本語を使用せず実施しています。私が授業に顔を出して日本語を話す」と、児童から英語で注意をさ

るので驚きです」

「学校の大きな選手は、日本と世界の差をなくし、日本が世界に知れ渡る活躍をしています。生徒には『日本に留まらず世界を見よう』『どこでも通用する知性と教養を持つ人間になろう』『そのために英語を勉強するんだよ』と教えています」

「一方、中学で成績が伸びなくても、一貫校であれば、高校で引き上げることができ、時間が十分にありま

学校法人 片山学園(富山市) 片山浄見 理事長 75



進学する実績をあげることができました」

「その後、生徒の口コミや親御さんのつながりで、『一貫校の片山学園は良い教育環境がある』と評価をされるようになりまし

「片山学園ファンは確実に増えています」

「教育現場に求められる要素や意識は変わりつつありますが、面倒見の良さ、質の高い教育を親御さんは求めています。これまでのような多人数の一斉授業だけでは、学力を

人間力養う学校実現

「医学単科大」が次の夢

片山氏は1977年10月、富山市星井町で六畳一間の学習塾を始めた。生徒1人、教師1人でスタートした学習塾はその後、北陸3県で多くの生徒を志望校に送り出す「育英センターグループ」に成長した。

学習塾で子どもたちとふれ合う中で抱いたのが勉強を教えるだけでなく、人間力も養

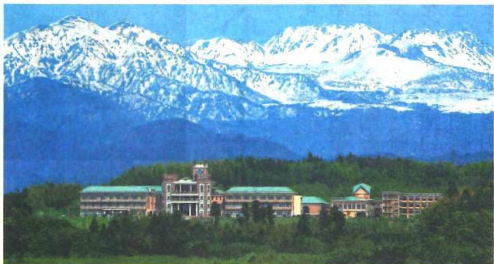
富山氏は1977年10月、富山市星井町で六畳一間の学習塾を始めた。生徒1人、教師1人でスタートした学習塾はその後、北陸3県で多くの生徒を志望校に送り出す「育英センターグループ」に成長した。

学習塾で子どもたちとふれ合う中で抱いたのが勉強を教えるだけでなく、人間力も養

富山氏は1977年10月、富山市星井町で六畳一間の学習塾を始めた。生徒1人、教師1人でスタートした学習塾はその後、北陸3県で多くの生徒を志望校に送り出す「育英センターグループ」に成長した。

学習塾で子どもたちとふれ合う中で抱いたのが勉強を教えるだけでなく、人間力も養

校舎立山連峰背に



片山学園中学校・高校からは雄大な立山連峰を間近に望むことができる「提供写真」。校舎には学生寮も併設され、手厚い学習サポートや、自然豊かな環境での学校生活にひかれ、県外から入学する生徒も少なくないという。

赤レンガの壁やシャンデリア、吹き抜けの天井など、開放的な校舎は、英国のイートン校のような500～600年の歴史がある伝統校を参考にしている。菅田将暉さんや土屋太鳳さんらが出演した映画「となりの怪物くん」(2018年公開)のロケ地にも使用された。

片山氏の視線は「大学を作る」という次の夢に向けられている。医学部の単科大学で、医師だけでなく、医学の研究者を養成する構想を描いている。「人生100年時代。まだ15年ぐらい、90歳までは現役でやるつもり。その間に医学部設立のめどを立てていきたい」と語る。



創立時を振り返る片山理事長(富山市東黒牧で)

1949年、富山市生まれ。富山中部高、青山学院大学卒。77年に育英センターを創設。その後、学校法人片山学園を設立し、初代理事長に就任した。